

◆共助の大切さ実感
～ボランティアコーディネーター活動



コープネット事業連合
中村 仁 氏

7月中旬と9月下旬に、岩手県宮古市生活復興支援センター（旧宮古市災害V.C）にて、災害ボランティアコーディネーターとして活動しました。主に被災者及び行政からの依頼に基づき、現地調査や必要資材の準備、ボランティアの配置や活動場所への送迎等を行ないました。

「泥出し」から「生活復興支援」へとニーズも変わってきていますが、全国からいらっしやったボランティアとの関わりの中で、「共助」という言葉の大切さをあらためて感じました。ボランティアの想いが復興に向けた一歩一歩につながったことは明らかだと思えます。震災以前の生活を取り戻すべく奮闘する中で、地域の方々による「支え合い」や「結びつき」が生まれているように感じます。今後の復興は皆さんの主体的な関わりにより成し得るものであり、ボランティアの長期的な活動が求められるのではないのでしょうか。

「こ～ぷのお家いしのまき」で「金魚すくい大会」

10月4日、大和郡山ロータリークラブ（奈良県）のメンバー5人がこ～ぷのお家いしのまき（※1）を訪れ、「金魚すくい大会 in 石巻」を開催しました。同クラブは地域の特産である金魚を活用し、高齢者のための金魚すくい体験活動に取り組んでいます。被災地のために何かしたいと考えていたところ、地元の「協同福祉会」（※2）を通じて、こ～ぷのお家いしのまきにつながりことができました。「この大会が少しでも被災地の方々の癒しになれば」とロータリークラブ会長の尾崎勝彦さん。会場となった地域交流サロンは、こ～ぷのお家いしのまきが地域のコミュニケーションのために設けた場所。午前中は、近隣住民50人ほどが集まり、金魚すくいに興じました。子どもはもちろん、大人にも大好評。会場のあちらこちらで歓声が上がっていました。

※1：みやぎ生協の福祉活動から発展・誕生した社会福祉法人こ～ぷ福祉会の施設。

※2：ならコープを母体とした社会福祉法人。



子どもも大人も金魚すくいに熱中。



抹茶のお茶席も設けられた。

おかやまコープ・食のイベントで被災地支援コーナー設置



多くの人でにぎわう被災地支援コーナー。



「(被災地への)メッセージ、書きました！」

10月1日、コンベックス岡山（岡山市）にて、おかやまコープ主催「ハッピーフードパーク 2011」が開催され、1万8,000人が訪れました。この取り組みは、組合員・職員と生産者やメーカーの方々が交流する食のイベントとして毎年開催されているものです。今年は、東日本大震災被災地支援コーナーが設置され、被災されたメーカーでおかやまコープと取引のある(株)シーサット、千倉水産加工販売(株)、(株)アマタケ、全国農協食品(株)が出展しました。8月30日から9月1日にはおかやまコープの平田昌三専務理事や職員が被災地のお見舞い訪問を行ない、組合員からのビデオレター等を届けました。当日は試食コーナーも登場し、多くの人でにぎわっていました。またいわて生協の商品や被災地メーカーの商品を集めた販売ブース、震災活動報告のブースも設置され、パネル展示コーナーや被災地の方へのメッセージを書き込むコーナーなどにも、多くの方が訪れました。